

※実務経験のある教員による授業科目

### 授業概要

ピアノ演奏や合唱団の伴奏、学校の音楽教師の経験や教科書教材の作編曲、読譜指導等の多様な実務経験を生かして、音楽に関する基礎知識や理論、歌唱法、コード伴奏法を学ぶクラス授業（ML教室45分）を行うとともに、経験の異なる学生に対応したピアノの個人レッスン（45分）を複数教員で指導することを並行して行います。保育者・教員としてのピアノの演奏の技能、コードによる弾き歌いの技能、音楽表現のための基礎技能を伸ばし、身体表現を伴う歌唱曲、手遊び曲を学びます。

### 授業計画

第 1 回	(クラス授業) ガイダンス、教育の現場に対応する音楽能力の伸ばし方、鍵盤と音階の関係 (個人レッスン) 個々の学生のレベルに対応した練習教材の決定
第 2 回	(クラス授業) リズム、読譜ワーク、(個人レッスン) 練習教材の配布、ド～ソの全調奏、 「ひげじいさん」Cメジャー
第 3 回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要な読譜演習、(個人レッスン) 「ひげじいさん」Fメジャー
第 4 回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要なリズム演習、(個人レッスン) 各進度に応じたレッスン
第 5 回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要な基礎的な音楽理論、リズム、拍子 (個人レッスン)
第 6 回	(クラス授業) リズム演習 (個人レッスン)
第 7 回	(クラス授業) コードネームの基礎 (個人レッスン)
第 8 回	(クラス授業) I, Vの和音のコードネームと歌唱曲の伴奏演習 (個人レッスン)
第 9 回	中間実技テスト、発声法
第 10 回	(クラス授業) I, Vの和音のコードネームと歌唱曲の弾き歌い (個人レッスン)
第 11 回	(クラス授業) 「ちょうちょう」I, V全調課題について (個人レッスン)
第 12 回	(クラス授業) コードネームによる伴奏法、テキストの歌唱曲の演習 (個人レッスン)
第 13 回	(クラス授業) 「ちょうちょう」I, V全調課題の授業内テスト (個人レッスン)
第 14 回	(クラス授業) コードネームによる伴奏法、生活の歌の演習 (個人レッスン)
第 15 回	(クラス授業) コードネームによる伴奏法、テキスト歌唱曲の演習 (個人レッスン)
第 16 回	期末自由曲実技試験

### 到達目標

子どもたちと楽しく活動できるような保育者、教員になるために、保育者、教員に求められる音楽的能力の重要性と、自身および子ども双方の音楽的能力の伸ばし方を理解し、読譜、リズム打ち、歌唱、ピアノ演奏、コード伴奏などの基礎的な音楽活動の方法を身につけます。今期は「ちょうちょう」のI, Vを用いた全調の伴奏および弾き歌いをマスターします。

### 履修上の注意

すべての授業に出席することが大切です。特に個人レッスンの機会は貴重ですから、1回1回を大切にしましょう。「クラス授業」もしくは「個人レッスン」のどちらかを休むとその日は欠席となります。また、遅刻3回で欠席1回とします。楽器は丁寧に扱い、音楽室使用の諸注意を守ってください。幼稚園や小学校、保育士で求められる教育の現場に対応する音楽技能として必須の内容です。「幼稚園実習I」のための必修科目、かつ幼稚園、小学校、保育士の免許取得の必修科目であり、卒業要件です。

### 予習・復習

練習では必ず目標を立て、そのつど、どこまでできたか確認しましょう。個人レッスンは練習をしたうえで受けることが必須であり、練習していない状態での参加は効果が期待できません。短時間の個人レッスンの指導を効果的に身につけるため、少しでも向上したと思えるまでピアノの練習をしましょう。ピアノの初心者には、実習に必要な「弾き歌い」の基礎を1年間で学ぶので、相当な覚悟で練習に取り組んでください。

### 評価方法

練習状況および授業態度（20%）、実技試験（40%）、全調課題（20%）、提出物（10%）、リズム課題（5%）を総合して評価します。

### テキスト

合同授業用 ・教科書名：『保育者のためのピアノの基礎』 ・著者名：井口太・笠井かほる ・出版社名：朝日出版 他にプリント配布。	個人レッスン使用 ・教科書名：『おとなのためのピアノ教本』I～V巻 ・著者名：ドレミ楽譜 使用する巻は進度に応じる。授業内で販売。
---	--